

そよかぜだより

第76号
発行 2008.9.21
毎月1回発行
NPO法人
障害者団体連絡会
そよかぜ
<http://www.mmjp.or.jp/soyokaze/>
連絡先
ひばり園 578-0855
FAX 578-0466
くれよん 578-2575
つくしの家 578-0855
あおぞら 570-6110
エール 570-1233
資源回収時のご連絡は「ひばり園」へ

障害ある人の就労を支援する新施設

羽村市障害者就労支援センター

「エール」開所しました

かねてから準備をしていた羽村市障害者就労支援センターが、施設名「エール」として9月1日に開所しました。

みなさまにもご出席いただき盛大に行われました。

またその前日の8月30日には羽村市福祉センターで新

事業についての一般向け説明会が開かれました。西多摩地

域では初の障害者の一般就労に向けて専門の相談援助機関

ということもあって、当日は

センターの大会議室が満員になる盛況でした。

開所以来2週間となる9月

15日現在の状況は、利用申

込み者が多く、3名の担当ス

タッフは大忙しで対応に追わ

れています。

「エール」開所によって、

障害者団体連絡会そよかぜが

運営する事業は次の通りとな

ります。

福祉作業所ひばり園

福祉作業所あおぞら

リサイクルショップ

くれよん
障害者宿泊訓練施設

つくしの家

グループホーム

ほほえみ館

リサイクル推進事業

羽村市障害者就労支援セン

ター

エール

は並木市長、水野市議会議長、関谷社協会長、野崎そよかぜ理事長、その他多数の来賓の

羽村市障害者就労支援センター「エール」の事業内容

羽村市在住で障害があって、一般就労を希望している人や、企業や事業所等に在職している人が対象です。

就労支援 就職したいという相談から、就職準備、就職して職場や仕事になれるまでの支援。

生活支援 安心して働き続けることができるように、日常生活に関する相談助言。

利用希望の方は

まずはお電話（またはファクス）してください。利用は登録制になっていますので、あらかじめ予約をお願いします。

費用について

事業の利用は無料ですが、実習時等の交通費や食事代等は本人の実費負担です。

利用時間と場所

月～金 午前9時～午後5時

羽村市神明台1-27-4

電話 042-570-1233

ファクス 042-570-1242

ご協力ありがとうございました。

(順不同)

8月の募金 23,282円
平成20年4月～8月の合計 205,064円

島田 博司 様	小林 幸一 様	藤野 和子 様
帯刀 進 様	国本 昭治 様	山田 隆章 様
濱野 岬 様	大野 元雄 様	田中 明子 様
北野 浩美 様	森田 勝 様	野崎 敬雄 様
山下 暉枝 様	清水 賢 様	天満 喜代子 様
袴田 実 様	清水 知子 様	平岡 知子 様
村野 理子 様	川崎 利男 様	関村 理 様
榎本 正代 様	清水 キヨ子 様	関村 英希 様
長谷川 キヌ子 様	松岡 竹子 様	尾又 恭子 様
関谷 孝子 様	角野 克子 様	角野 満壽子 様
山崎 六雄 様	柴田 佳代子 様	本間 正彦 様
渡辺 四郎 様	竹内 照夫 様	関谷 博 様
下田 コウ 様	斉藤 忠 様	田中 稔 様
土屋 三枝子 様	永岡 智恵子 様	指田 様
平野 嘉子 様	小沢 達子 様	関谷 達夫 様
草間 哲夫 様	吉野 満里子 様	関谷 和子 様
アークオンカワノ 様	桜沢 喜作 様	アークオンパティックス 様

匿名様(628円)

ご連絡は、ひばり園へ

羽村市五ノ神2-6-7

042-578-0855

くれよん8月の売上げ

775,770円でした。

羽村市内の小学校と中学校の生徒のみなさんが、各学校単位でプルトップ収集にご協力して下さっています。ありがとうございます。

NPO法人 そよかぜの

《資源回収》に

ご協力をお願いします
新聞、雑誌、ダンボール

(ボロは扱っていません)

8月は25,640tでした。金額は595,078円となりました。この収益は、NPO法人そよかぜの運営資金になります。みなさまのご協力ありがとうございました。

10月は第3日曜日19日です。

大雨の場合は、次週の日曜日に順延します。

ひとりトイレで食事をするほど

人の視線を気にする若者

発達障害者が多くなる原因かも

少し前のひばり園に、トイレの中で食事をする女性がいました。みんなと同じ弁当を取らないでパンなどを買ってきてトイレで食べるのです。

食事に限らず人が大勢いるところが嫌いで、ロッカーのかけなど人目に付かないところでじーと一人でいるのが好きでした。みんな帰った後で戸締りの点検をしていた女性職員が、薄暗い室内の隅にその人が一人黙って立っているのを発見して「キヤー」と悲鳴を上げたこともありませう。そういう人ですから、人がいるひばり園に来るのはいやだったのですが、同居していた親に言われてしぶしぶ出てきていました。念願のアパート暮らしができるようになってから、ひばり園には来なくなりました。

少し前のひばり園に、トイレの中で食事をする女性がいました。みんなと同じ弁当を取らないでパンなどを買ってきてトイレで食べるのです。という書き出しで始まる記事を見て彼女のことを思い出し、辻大介という大学の先生が書いたもので、要旨は次の通りです。

孤独だけでなく「友達のいない変な人」という烙印の視線にも耐え続けなければならぬ。ひいては、いじめの対象になる恐れもある。大学生や社会人になってもその感覚を引きずっている。若者たちが恐れているのは、ひとりであること自体よりむしろ、そこに向けられる仲間、同輩の視線である。その視線から逃れる場所は、それこそトイレの個室くらいしか残されていない、と先生は言っています。

昼休みに一緒に食事する相手のいない学生が、ひとりである姿を周囲に見られないよう、トイレの個室にこもって食事をする。そのことを指した若者言葉だそうです。本当にそんなことがあるのだろうかと思われ、かと思われ、先生が学生たちに聞いてみると、「そこまでしようとは思わないけれど、気持ちはよくわかる」、「大学でひとりで食事するなんて、友達のいない寂しい人に見られそうでとても耐えられない」という学生が多かったそうです。

いまの若者は、高校までの間は、学級を中心とした仲間集団の中に閉ざされ、限られた関係の中で友達を作らねばならず、それに失敗した者は

そういう障害なんだと、障害のせいにしてさほど不思議に思わずみんな慣れていました。しかしこの先生が書いた記事を読んで、障害のない普通の若者も、いまでは障害者と同じことをしていることがわかりました。

このことは、彼女が障害者でありながらも、周りの視線を敏感に気にするという部分で普通の人と同じくらい強い感受性を持っていたせいなのか、それともいまの若者が社会の構造のせいであるのかなのか、その真相はわかりませんが、彼女が悪いのか、社会が悪いのか、どちらにしても「便所飯」というなんとも奇妙な行動ではみごとに一致しています。

視線のプレッシャーの中で若者は人間関係にかなりの神経を遣って生きています。「何かするときは人の目を考慮」し、「友達と意見が食い違ったら、相手に合わせる」のだそうです。その場の空気を読むことに超敏感です。

ところで昔、頑固で人付き合いは悪いけれど、腕のいい職人タイプの人は世の中にたくさんいました。周りの人から変わり者とか偏屈とかいわれていましたが、それでも「変わり者」だけど、この仕事ならあの人に敵う者はいない」と一目も二目を置かれ、本人も偏屈といわれることをかえって勲章のようにして立派に一本立ちしていました。私の子供のころを思い出してみても、小さな田舎町でしたが、そんな人は何人もいました。他人の視線を気にしたり、その場の空気を読むことなどは別世界の人でした。周りも本人もそのことを承知で生きていました。いまでもこをみてもそのような人は見当たりません。

アスペルガー症候群や高機能自閉症などは発達障害といわれ、障害者数は知的障害者の数倍に達します。その人たちに共通の特徴は、他人とのコミュニケーションが苦手なことです。得手不得手が極端にはつきりしていて、得意分野ではすばらしい能力を発揮します。これは「変わり者」だけど腕がいい職人タイプ」とほとんど同じです。発達障害者支援法が施行されて以来、

この人たちも障害者といわれるようになりまし。精神医学者の高岡健氏は、発達障害は社会構造の変化の過程であり出されてきたものだ、といっています。

若者が、人の視線に敏感になるのは、そうしなければ生きて行かない社会になったことを、まさに敏感に感じとっているからではないでしょうか。腕一本で生きていくのはむりで、組織の中で、チームワークの中でうまくおよいで行く、そういう社会になったのだと彼等が言っているような気がします。

知的障害のない発達障害者は誤解されやすく、職場に居づらくなります。転職を繰り返していきうちに、自分を責め、自信を失い、うつ病や神経症を併発して福祉に頼る人もいます。

このたび開所した、羽村市障害者就労支援センター「エール」にも、そのような人が支援を求めてくるはず。そのような人が多くなる社会だからこそ、エールのような新事業が必要になったのかもしれない。